



マイクロン、日本での世界最先端の1ベータDRAMメモリ量産を祝す式典を開催

November 16, 2022 at 2:00 PM JST

2022年11月16日、日本・広島発 —Micron Technology, Inc. (NASDAQ:MU、マイクロンテクノロジー)は本日、[世界最先端の1β\(1ベータ\)DRAMメモリ](#)の量産開始を記念して、マイクロンと日本の長年の関係を一層、深化させる式典を開催しました。「Advancing the future from Hiroshima」と題した式典は、世界初の1β プロセスノードによるDRAMの製造を開始したマイクロンの広島の生産拠点で行われました。式典には、[ラム・エマニュエル](#)駐日米国大使、野原 諭 経済産業省商務情報政策局長、湯崎 英彦 広島県知事をはじめ、広島の行政関係者、顧客、サプライヤー、大学関係者、コミュニティ・パートナーの方々に出席いただきました。

マイクロンは先頃、広島の生産拠点に対して最大465億円の政府助成金の交付を受ける予定であると発表しました。マイクロンはこの助成金を活用し、1β DRAMメモリ関連を含め業界をリードする製造能力を強化します。

マイクロンの社長兼CEO サンジェイ・メロートラは「世界最先端のDRAM技術である1βを広島で開発できたことを嬉しく思うとともに、量産開始に期待しています。日本政府、特に経済産業省から長年にわたり技術および業務遂行の向上に対してご支援を頂戴し、感謝しています。マイクロンの顧客、大手装置・材料メーカー、大学研究機関、その他の業界関係者を含む日本の半導体エコシステム全体とのパートナーシップを継続し、業界を先導するマイクロンのメモリ技術への投資がすべての人に利益をもたらすようにしたいと考えています」と述べています。

甘利明 衆議院議員は「世界最先端のDRAMプロセスノードである1βを導入したマイクロンの目覚ましい成果を嬉しく思います。日本の半導体産業における長年の歴史、強力な人材基盤、確立された産業エコシステムが、マイクロンのDRAM技術の躍進を支える上で重要な役割を果たしました。この成果は、半導体産業における日米の強力なパートナーシップを裏付けます。私たちは、サプライチェーンの回復力を高め、日本のデジタル変革を実現させるために、マイクロンや米国政府と連携協力していくことに期待しています」と述べています。

ラム・エマニュエル駐日米国大使は「世界最先端の1β DRAMをここ広島で製造するというマイクロンの決定を祝うこの式典に経済産業省や地元関係者の方々とともに出席できることを光栄に思います。これは、世界の半導体と製造業にとって画期的であり、米国と日本が互いの国への最大の外国直接投資であり続けていることを象徴しています。この投資は、我々の比類のない通商外交と両国の経済およびサプライチェーンの一層の統合を強調するものです」と述べています。

マイクロンの業界初の1βベース プロセステクノロジーは、より小さなフットプリントで一層のメモリの大容量化を実現し、メモリデータの1ビットあたりのコストを低減します。1βプロセステクノロジーで製造されたマイクロンのDRAMは、データセンター向け5Gや人工知能(AI)など、よりスマートで応答性の高いインフラやデバイスなど、エンドツーエンドで技術革新の新たな波を実現します。

マイクロンの広島の生産拠点は、1β プロセスノードの量産を開始した世界初の製造施設です。マイクロンは日本に5つの拠点を有し、各拠点が複数の製品ラインにわたるマイクロンの最先端DRAM技術の研究開発ロードマップ(生産計画)で重要な役割を担っています。マイクロンは2013年以降、日本に130億ドル以上の投資を行っており、過去5年間の投資では日本における最大の海外投資家です。マイクロンは日本国内に4,000人以上のエンジニアや技術者を擁し、人材開発にも注力しています。また、過去5年間に、国内で1,500人以上の人材を新規雇用しています。

Micron Technology, Inc.について

マイクロンは、情報活用のあり方を変革し、すべての人々の生活を豊かにするために、革新的なメモリおよびストレージソリューションを提供するリーディングカンパニーです。顧客第一主義を貫き、テクノロジーの最前線でリーダーシップを発揮し続け、洗練された製造技術と事業運営を妥協なく追求するマイクロンの製品ポートフォリオは、DRAM、NAND、NORの各種メモリからストレージ製品まで多岐にわたり、Micron[®]またはCrucial[®]のブランドを冠した高性能な製品を多数展開しています。マイクロンで生まれた数々のイノベーションは、データの活用を加速すると同時に、人工知能や5Gといった最先端分野の進歩の基盤として、データセンターからインテリジェント・エッジ、さらにはクライアントコンピューターとモバイルをまたいだユーザーエクスペリエンスまで、さまざまな事業機会を新たに生み出し続けています。Micron Technology, Inc. (Nasdaq: MU)に関する詳細は、[micron.com](https://www.micron.com)をご覧ください。(英語)

©2022 Micron Technology, Inc. All rights reserved. 情報、製品および仕様は予告なく変更される場合があります。マイクロン、マイクロンのロゴ、およびその他のすべてのマイクロンの商標はMicron Technology, Inc.に帰属します。他のすべての商標はそれぞれの所有者に帰属します。